

# 令和7年度第3回 出雲市行財政改革審議会 会議概要

1. **開催日時** 令和8年1月29日(木) 10:00~12:00

2. **開催場所** 出雲市役所6階 議会委員会室

## 3. 会議の出席者

### (1) 委員(15名)

吾郷美奈恵委員、伊藤繁満委員、糸賀元次委員、金山孝治委員、川田量子委員、坂本満委員、坂本百合子委員、関耕平委員、鳥目純子委員、長廻利行委員、成相善美委員、三島貴子委員、水陽子委員、山崎要委員、山崎順子委員  
※欠席者2名(石橋慎也委員、金築真志委員)

### (2) 事務局(9名)

小村総務部長、  
安井財政部長  
財政課 田中財政部次長兼財政課長  
人事課 山崎課長  
行政改革課 西課長、須田課長補佐、河原副主任  
行政改革課施設経営室 坂根室長  
情報政策課デジタル戦略室 山内室長

## 4. 会議

### (1) 総務部長あいさつ

- ・3月議会を控え、来年度の予算編成の大詰めを迎えている。近年の物価高騰や少子化対策に伴う社会保障費増の影響から、大変厳しいものになると考えており、今後、しっかりと行財政改革を進め、効率的で持続可能な運営をしていく必要があると考えている。
- ・本日は、1月26日に市民課で始まった「書かない窓口」を含めたデジタルファーストの取組状況などについて説明する。
- ・本会議は今年度最終の会議となるが、様々な分野からのご意見等いただきたい。

### (2) 委員の異動

- ・出雲青年会議所理事長の交代により、山本委員に代わり、石橋慎也様に新たに就任いただいた。

### (3) 関会長あいさつ

- ・本日の議題は、関心の高いデジタルファーストの取組状況や行財政改革前期実施計画の取組状況を踏まえた見直しの考えについて、そして出雲市公共施設等総合管理計画の改訂についてである。行政サービスの基盤ともいえる公共施設のあり方、行政のあり方であり大

事な点である。

- ・しっかりと議論を深め、活発な意見交換ができればと思う。

#### (4) 会議の成立

- ・本日の会議は、委員 17 名のうち 15 名に出席いただいている。審議会条例第 5 条第 2 項の規定により過半数に達しているため、本会議が成立していることを報告する。

#### (5) 配布資料の確認

事前送付資料

- ・【資料 1】 デジタルファーストの取組状況について
- ・【資料 2】 行財政改革前期実施計画の見直しについて
- ・【別冊資料】 出雲市行財政改革前期実施計画
- ・【資料 3】 出雲市公共施設等総合管理計画の改訂について
- ・【別冊資料】 出雲市公共施設等総合管理計画

当日配布資料

- ・会議次第
- ・委員名簿
- ・座席表

#### (6) 議事（発言要旨）

##### ① デジタルファーストの取組状況について【資料 1】

【情報政策課デジタル戦略室 山内室長説明】

- ・本市は、人口減少や少子高齢化といった深刻な社会課題に正面から向き合うため、令和 2 年 6 月にデジタルファースト宣言を行った。この宣言では、AI や ICT などの先端技術を最大限活用し、安全で安心な生活を実現することを目指している。
- ・まちづくりのための取組としては、最高デジタル責任者である市長を専門的見地から補佐するため、外部人材の CDO 補佐官を登用している。企業誘致や高度 IT 人材の誘致、庁内 DX の推進などで効果を上げている。また、CDO 補佐官の人脈を生かした企業人材誘致のきっかけづくりなど、数値化できない大きな効果も生まれている。
- ・市民向けの取組としては、1 月 26 日から窓口改革プロジェクトとして、市民課で「書かない窓口」の運用を開始し、従来、窓口で書いていた申請書の記入が不要となった。また、番号発券システムの導入により待ち時間の短縮や待ち状況の見える化など、市民サービス向上の効果は非常に大きいと考える。
- ・窓口のワンストップ化についても、現在行っている死亡届の手続きだけではなく、来年度以降、複数課の業務に展開することを検討している。
- ・キャッシュレス化により証明書発行等の支払いがクレジットカードや電子マネーで可能になった。本市が進めている、いずれ縁結びPAYにも対応している。
- ・併せて、導入したPOSレジは、レジ締め作業の効率化に繋がり、職員がより市民サービスに注力できる環境が整った。
- ・情報発信の利便性向上としては、市公式LINEの登録者が3万5,000人を超えた。これ

は本市の人口の約2割に相当する。

- ・デジタルが苦手な方への対策にも力を入れており、高齢者向けのスマートフォン教室は、令和4年度から3年間で延べ、1,520人の方の参加があった。
- ・行政事務での取組として、ペーパーレス化の推進で大きな効果を上げている。電子決裁の導入では、印刷コストの削減だけでなく、事務の迅速化、印刷時間の削減など、職員が有効に時間を使えるようになった。また、電子機器の整備により、オンライン会議が普及し、移動時間の削減や遠方の企業などとの打ち合わせが容易になった。
- ・今年度はデジタルファースト推進計画の最終年度に当たることから、来年度に向けて改定作業をしている。今後も、デジタル技術を活用し持続可能なまちづくりを推進していく。

#### 【質疑】

#### 【委員】

- ・デジタルファーストの取組を開始して、市職員の業務的な負担軽減に繋がっているのか。数値として分かるものがあれば知りたい。
- ・「ペーパーレス化を推進する電子機器などの整備」は、具体的にどのようなものを導入したのか。
- ・行政事務の取組の中で、効率化で効果があった事例に関しては、他の公共施設や各行政センターなどに共有するとデジタルファーストがより進むと思う。
- ・市公式LINEや市ホームページが以前より活用しやすくなったと感じている。AI導入による効果だと思っている。
- ・公共施設の予約システムも取組がうまくいっていると実感しており、予約数が増えたと感じる。しかし、それに伴う作業は増えたと感じており、一度入力したものを行政の報告書等に使用できるシステムがあればと思う。現在は、入力したものを再度、別のものに入力して報告する事務作業が増えている。

#### 【事務局】

- ・職員の負担軽減に繋がっているかについて、数値化は難しいが、例えば、作業の自動化で年間8,192時間削減できている。これは、RPAを取り入れることで、作業時間がどれぐらい縮んだか各業務で確認し、その結果を積み上げているものである。少なくとも、RPAの使用で業務削減に繋がってきていると考える。
- ・他にも、文字起こしやAI-OCR、また、AIを用いて文章のたたき台を作ることでもできるようになってきており、実感できる業務削減効果であると思う。
- ・ペーパーレス化推進の電子機器は、主に、職員が使用できる会議用モニターやネットワークに繋がってオンライン会議ができるような機器などである。ペーパーレス化をするにあたっては、市内部での協議では、今まで紙を印刷していたものを、すべてペーパーレスできるようにモニターなどのデジタル端末を配置し業務の効率化に繋がっている。
- ・業務効率化における事例共有の必要性は感じている。また、公共施設や行政センターなどの業務効率化の取組についても対応していきたいと思っている。なお、ペーパーレスなどの取組は全職員でやっているため、各部署で効率化に繋がる部分もある。
- ・市ホームページのAI検索は、AIがどんどん学習しなければ精度が上がらない部分があるが、ホームページがすっきりし、概略が分かりやすくなった。

- ・公共施設の予約システムは、使える施設や予約ができる施設を増やすことが課題と感じている。市への報告作業が一度でできないかということについては、課題として承りたい。なお、システムは過渡期であるため、現在よりも効率的なものになるよう検討している段階である。

#### 【委員】

- ・海外からの移住者 19 名のうち、市内移住が 10 名というのはすばらしいことだと思うが、この 10 名は町内会に加入されているか。
- ・公共施設の予約について、1 か月分の申請書だけでもとても多く、使用日時の申請が被った場合は手作業で調整し、さらにそれを入力する手間がある。また、毎日、部屋ごとの日誌をつけて入力する作業もあり、とても手間がかかっている。これらの手間を、今進めている A I - O C R で簡単にデータが入力できるようなシステムにしてほしい。職員を配置し作業しているが、報告の処理が追いつかず、予約の入力ができない状況もある。
- ・広報いずもの配布方法について、町内委員と検討したところである。地区からの配布物は全戸配布するが、市からの配布物はどうするかとなった時に、最近の広報いずものが素晴らしく、内容が充実しているので手元に欲しいという意見があったため、配布部数は減らない感じがする。中には、デジタルで良いとの意見もあるが、高齢者まで見ることができるという点では、手元に欲しいという声、そしてファンがたくさんいるということでもうれしく思った。
- ・先日、自治会加入率が 90% を超えている他県の市町村と意見交換を行った。その際に、配布物はデジタル化を進めながら、地域の皆さんの声を聞き、市の広報紙は月 2 回、すべて新聞で配布しているとのことだった。新聞で配布すると、町内会加入の有無によらず、情報が届くという面がある。デジタル化を進めながら市民ファーストという点で、出雲市も考えていただけたらと思う。
- ・ペーパーレス化も進めながらではあるが、町内の皆さんと話して分かったことは、改めて広報いずものがとても大事なものである。

#### 【事務局】

- ・海外からの移住者が町内に加入しているかは、担当課が異なるため把握していない。しかし、町内会の加入によらず、地域の催しなどに参加しているなどの話も聞く。地域に溶け込もうという気持ちはすごく持っていると感じている。
- ・公共施設予約システムについて、報告書が多いため A I - O C R が使えないかとの話だが、現在、どのような様式でも A I が中身を判断し、項目化するような新たな A I - O C R システムの検証もしており、応用できるかもしれないため、ご相談いただきたい。
- ・広報いずものを他自治体のような新聞配布で行うことについては、この場で判断できないが、回覧版の配布物も市ホームページでデジタル回覧版として見れて、町内会に加入されていない方でも地区の配布物を確認できる環境になってきている。

#### 【委員】

- ・業務の効率化などで、一般的に新しいものを取り入れたり、これまでの内容から変更するときに、その業務に直接携わる職員への負荷は非常に高いという認識である。携わる職員

の業務負担について、どのような状況か。

- ・また、先日地震があったが、デジタルファーストの取組での災害対策についてお尋ねする。今までは、人が直接やり取りを行うような対応が多かったのではないかと思うが、デジタルファーストの取組として、大規模災害の際にはどのような対応を想定しているのか。
- ・外国語の手続きのガイドについて、ポルトガル語版と英語版を作成しており、非常に使い勝手がいい内容だという説明があったが、実際に使用した人からのフィードバックなどあるか。

#### 【委員】

- ・市公式LINEの登録者数が3万人超ということで、便利になり、災害でも活用できるようになっていると思うので、高齢者の方であっても情報を取るツールとして活用していった方が良いのではないかと思う。

#### 【委員】

- ・CDO補佐官の登用について、どのような形で誘致等に関わったか、また、どのような提言やアドバイスを行っているのか。
- ・多文化共生に力を入れているとのことだが、ポルトガル語版と英語版のパンフレットについて、今後、デジタル化に対応する予定があるか。または、現状の対応としてどうなっているのか。
- ・市職員の具体的な業務負担の状況はわかったが、生成AIの活用について職員からはどのような声が上がっているのか、どのような課題があるのか。また、研修等でデジタル化の利用促進もやっていると思うため、職員からの声を教えてほしい。

#### 【事務局】

- ・職員の業務負担について、追加で難しい業務をするため大変ではあるが、外部の力も借りながらBPRという業務の見直しを外注し、取組をしているところである。
- ・職員はペーパーレス化も始めたことから、改善に対する意欲が実感できており、今は大変だが、将来、楽になるのであれば頑張ろうという機運は徐々に出てきていると感じている。
- ・災害対策については、市公式LINEを使って災害情報が見れるようになっているため、そちらで確認いただきたい。また、スマートフォン教室や高校生のスマホ相談会では、市公式LINEの紹介もしている。
- ・多言語化の手続きガイドは始めたばかりで今はフィードバックはない。結婚や出産に関わる手続きは何が必要かを、市ホームページで日本語版に加え、英語版、ポルトガル語版も用意して手続きがしやすくなるようにした。
- ・CDO補佐官の具体的なアドバイスについて、基本的には市長の補佐官であるため、直接やりとりをしている内容までは把握していないが、AIを進めていく必要があることや、ペーパーレス化を進めることについて、大きな方針として出している。また、官民連携や外国からのIT人材の誘致など、市長とCDO補佐官と連携して取り組んでいる内容であるので、地方創生テレワークアワードに選出されたように、結果となって形にあらわれてきているのではないかと思っている。
- ・職員からの生成AI活用に関する改善提案については、もっと使いやすくなるようにして欲しいという声が上がってきており、業務効率化や職員のやる気の向上につなげていきたいと思っている。

**【委員】**

- ・多言語化についてはマニュアルももちろんだが、難しい将来的な課題であると思うが、日本人だけではなく、外国人にも波及すればいいと思う。

**【委員】**

- ・災害対策について、災害情報が市公式LINEで出るとのことだが、どの程度の災害まで見込んでいるか。市公式LINEで災害状況が出せないような状況になる想定はしていないということか。東日本大震災の時は、情報が行き届かなかったと聞いている。

**【委員】**

- ・甚大な被害があったときはデジタル化があっても、なかなか行き届かないということが念頭にあるかどうかということである。

**【事務局】**

- ・市では、災害情報について、これまでは各地で起こっていた災害状況を電話やFAXなどで連絡しながら取りまとめたり、必要に応じて市民に発信をするという形をとっていたが、現在、災害情報管理システムを入れたことで、各地で起こった災害状況やその処理状況をシステムに入力し、把握・管理できるようになっている。そこから市民への周知を検討し、随時発信する形をとっている。今後、精度を高め、より使いやすく、分かり易いシステムにしていきたいと考えている。

**【委員】**

- ・地域では小学校の統合や公共施設が空いている現状があると思うが、デジタルファーストの取組の中にそのような情報を企業向けに出すようなことはしないか。地域でも検討しているが、全部を地域で活用することは難しい。この取組の中に企業への情報提供について入っているか、また、将来的にそのような取組を検討しているか知りたい。

**【事務局】**

- ・企業に向けたDX化は、市の産業振興課や商工振興課で取り組み、支援をしていると思う。
- ・一方で、行政の中のDX化だけでなく、地域へのDX化は産業も含め必要だと感じている。デジタルファースト推進計画にも位置付けているため、不十分な部分については、これからも拡充を検討していきたい。

**【委員】**

- ・有利な財源または国や県の交付金等を活用し、工夫して財源調達を行い、取組を進めているという印象を受けた。現計画が最終年度ということで、おそらく国の事業採択を受けて5年間やっていたと思うが、今後の財源の見通しはかなり厳しくなるのではないかと思う。一方で、初期投資を国の財源を活用しながらできて、将来的なランニングコストはこの5年間はほとんど発生しないという見通しで良いのか。または、国の事業指定を受けている中で財源が厳しくなるということなのか。今後の見通しについて、何かあれば教えていただきたい。

**【事務局】**

- ・財源については、社会情勢と国の施策を的確にとらえて、使える財源があるかどうかなど

を見据えながら国の施策や補助金などの財源を活用しながらやっていきたいと思う。現在、国の財源で手厚く措置していただいたものが、今後どうなるのかは不透明であるため、情報をキャッチしながらやっていきたい。

#### 【委員】

- ・市として新しい動きをキャッチしながら、有利な財源を模索して、できるだけ市民負担のない形で進められるような工夫も行政として問われるところだと思うため、ぜひ取組をお願いしたい。

## ②行財政改革前期実施計画の見直しについて【資料2】【別冊資料】

### 【行政改革課 須田課長補佐説明】

- ・令和6年4月に、今後10年間の行財政改革の指針として、第3次行財政改革大綱と具体的な取組を定める前期実施計画を策定し、取組を進めている。
- ・本計画は、令和6年度から令和10年度までの5年間の計画であり、令和8年度は中間年度となる。財政状況や取組状況を踏まえ、令和9年4月の見直しに向けて、来年度に議論したい。
- ・現在の計画は、令和3年の財政計画をベースとして収支不足をまかなうように策定した。一方で、令和6年12月に新たな財政計画が策定され、本計画期間中の収支不足額は32億円となった。また、令和6年度決算額と令和7年度当初予算額を反映すると約34億円の基金を繰り入れる必要があるということとなった。
- ・現計画の8億円から大きく乖離しているため見直しを行う必要があるということである。要因は様々だが、令和3年に策定した財政計画は、新型コロナウイルス感染症が蔓延している状況下で、事業の見通しが難しい段階での計画策定であったが、令和6年12月の財政計画は、コロナ禍を経て、事業再開をした状況もあり策定時の背景が異なる。
- ・一方で、エネルギーセンターや総合体育館などの大型施設建設による公債費や社会保障費等の増加、近年の物価高騰など義務的経費の増加も大きな要因として挙げられる。
- ・そこで、目標額の見直し方法について、個別の取組項目をどのように見直していくのかを確認いただきたい。
- ・見直しとして、新たに財政効果が見込める取組は項目に追加し、すでに取り組んでいる取組は、令和6年度の実績を踏まえ、今後も効果額を計上する。また、現計画策定時よりも効果が大きかったものは現状を踏まえた目標額に更新していく考えである。
- ・このほか、今後行っていくものの中で、新たに行財政改革の項目に取り上げられるものがあれば、計画の見直しに取り入れていきたい。
- ・今後のスケジュールは、令和8年7月下旬に令和8年度第1回審議会を開催し、令和7年度の行財政改革の取組状況をご報告する。その報告も踏まえ、前期実施計画の見直しを令和8年度に行い、令和9年4月に改訂予定としたいと考えている。

#### 【質疑】

#### 【委員】

- ・現計画にない取組も含め、多岐にわたっての見直しが必要だと思う。市全体で取り組まなければいけないことであるため、市民や他の部署等にも周知するとともに、無駄のない取

組を心がけなければならないと思う。

【委員】

- ・ 8 億円から 34 億円に収支不足額が大幅に増えるということで、背景や原因を確認した上で、どう対応するかになるかと思う。歳入歳出の推移を見ると、歳入歳出とも、大きく下がっていくが、特に歳入の削減幅の見通しがかなり大きく、100 億円近くの歳入減という前提となっている。これは、中期財政計画に組まれていると思うが、この辺りはどうみたらよいか。

【事務局】

- ・ 歳入の減については、税金は引き続き堅調でということで集計しているが、減るものとしては交付税関係である。借りた起債に係る交付税措置が、起債の償還が進んでいくと減っていき、同時に公債費も落ちていくため財源としては減ることになる。

【委員】

- ・ 100 億円の減収に対応してさらに歳出の削減ということであるため、かなり大きい金額であると思う。来年度以降の審議会で実施計画を振り返りながら議論していかなければいけないと思う。

【委員】

- ・ 34 億円という額が市にとって大打撃なのかどうか、今後計画を立てていく上でイメージするようなものがあるのか。

【委員】

- ・ 2008 年から 2010 年代にかけては、かなり厳しい歳出削減の議論をしてきた。そのころに比べて、半分なのか、3 分の 1 なのか、収支不足額は気になる部分である。次回の審議会では、その規模感や危機感なども共有する必要があるのではないかと思う。

【事務局】

- ・ 財政計画は令和 6 年度に策定し、令和 7 年度から 10 年間の計画を立てているが、この中で、財政が破綻しないよう、収支不足額という、いわゆる財政調整基金や減債基金を取り崩して財政収支を組み立てている。この基金が 10 年後に少なくとも 20 億円は残るように財政計画を立て、10 年間で財政運営をしていくというものであり、その過程の中の 1 つである。
- ・ 財政計画は 3 年ごとにローリングをするため、しっかりと現状を踏まえ組み立て直しながらやっていくため、危機的な状況にあるという意味ではない。一方で、基金を崩していかなければいけない現状があるということも事実であるため行革の取組の中で、カバーしていければという考えである。

【委員】

- ・ 基金にも関係してくるが、以前の審議会での令和 6 年度決算報告では、基金残高が 110 億円で、ほとんど前年度と変わらないという報告を受けたかと思う。決算で積み戻しをしたと思うが、そうであれば、10 年後を見て 20 億円以上の基金残高という目標だったと思うので、大丈夫な状況なのではないかという印象を受けた。

- ・ 厳しい目で計画を立てていると思うので、実際にはこの 34 億円を切り崩しても 20 億円は残るのではないかと思う。そのあたりをどう理解したらよいか。

**【事務局】**

- ・ 基金の総額はあまり変わらず、令和 6 年度決算も黒字の決算である。令和 7 年度 9 月補正予算で減債基金に 9 億円積み立てており、積み戻した形である。
- ・ 財政計画自体は、決算見込みと収入見込みを比べたものであり、剰余金が出るということは想定していないため、この時点での見込みは基金を繰り入れて収支均衡になるよう立てていたものである。

**③出雲市公共施設等総合管理計画の改訂について【資料 3】【別冊資料】**

**【行政改革課施設経営室 坂根室長説明】**

- ・ 出雲市公共施設等総合管理計画は、平成 28 年 3 月に策定し、計画期間は平成 28 年度から令和 27 年度までの 30 年間となっている。
- ・ 計画策定から 10 年が経過することから、直近の状況を踏まえた数値等に更新する改訂を予定している。
- ・ 改訂内容は、1 つ目は、本市の公共施設等の状況として、公共施設の保有状況や人口財政状況の推計など、公共施設を取り巻く状況に関して直近の数値に更新する。
- ・ 2 つ目は、これまでの取組実績と将来的な経費の見通しについて、現計画は 10 年前の策定当時の数値であるため、直近の数値等に更新する。
- ・ 3 つ目は、保有量の適正化に係る今後 10 年間の目標値について、平成 28 年度から令和 7 年度までの期間において、延床面積の 2 割削減という目標値を設定していた。令和 8 年度以降の目標値等について改訂に伴い設定の見直しを行う。
- ・ 最後に、構成の見直しとして、分かり易くなるよう全体構成の見直しを行う。
- ・ 改訂の予定は令和 8 年 3 月としているため、改訂後の計画内容等については、次回の審議会で報告する。

**【質疑】**

**【委員】**

- ・ 出雲市は延床面積が広いとあったが、他市と比べて有効に使われているのか。例えば、スポーツ施設だと、旧体育館から新体育館になったが、いろんな古い体育館が使用不可になっている。
- ・ 学校の体育館等も思うように使われていないような気がしている。もっと施設が有効に活用されると地域のスポーツ発展や市民の健康のために有意義に使われるのではないかと思う。
- ・ また、いろいろなボランティア関係の方や子育て関係の方などにとっても、有効に活用できるようなことも考えていかなければならないと思う。

**【事務局】**

- ・ 公共施設は使っていただくことに意義があると思っている。それぞれの公共施設をたくさん使っていただくことを目指して、PR していかなければいけないと考えている。

**【委員】**

- ・令和 8 年度から公共施設の使用料が 1.5 倍になるが、施設を使用している方からは、トイレを直して欲しい、施設を直して欲しいという要望がある。しかし、実際は改善されないまま使用料が 1.5 倍になるのは、何とかならないかという声がある。また、4 年後に国スポがあるが、出雲がメイン会場となってこれから盛り上がっていかなければならないところで、スポーツ関係の方からは何とかならないかという話もある。使用料が上がるのであれば、改善を求めているところに反映されるような形を考えてもらえたらと思う。4 年後の国スポがせっかく出雲で開会式も行い、メイン会場となるので、スポーツ関係も含め、皆で盛り上がっていくような形になればと思っている。

**【委員】**

- ・第 3 次行財政改革大綱において、新たな取組として付け加えられたものが施設の利活用であり、使ってもらうための工夫をどうするかという視点が重要だという考えであった。
- ・現在の計画では、利活用の記載が少ないかと思うため基本的なところも見直していただければと思う。

**【委員】**

- ・公共料金が上がることは、指定管理料を増やさないといけない、または、施設で働く職員の待遇改善も改善しなければいけないということで、必要性は理解しているが、過疎化による人口減で周辺部は厳しい状況である。利用率だけですべてを判断されるとさらに厳しいことになる気がしている。
- ・中心部と周辺部の差というものを理解した上で、計画を立てていただきたいと思う。

**【委員】**

- ・計画中の旧自治体別の延床面積構成比では、周辺部の延床面積は小さい。旧出雲市を念頭に一律で切っていくのではなく、周辺部は活用方法をメインで考えたりするなど、周辺部にとって必要な施設であるという重要な視点であると思う。

**【委員】**

- ・インフラという面でスポーツ施設や公共施設、また、観光の面でもトイレ整備が問題になっていると思う。今後、国スポでたくさんの方が訪れる際には、近隣の観光施設等にも足を運ばれると思うので、最低限、トイレが少ないなどの残念な思いをして帰られる方がいないように考えてほしい。

**(7) 閉会にあたって**

- ・今年度の会議は 3 回で終了とさせていただく。
- ・来年度の審議会は、7 月下旬頃に開催予定としている。日程等については改めてご案内する。